



写真1

葉



写真3

花序軸 (花床)



写真2

頭状花序



写真4

頭状総状花序

## 春に開花する草花の促成栽培 その2

濱谷修一・飯塚康博・横山裕彦

当園では毎年1月初めから約1カ月間、屋外の花が少ない時期に、一足早く春の雰囲気を楽しんでもらうという趣旨で「春をよぶ植物展」と題し、展示会を開催している。対象となる植物は正月から4月頃にかけて室内および屋外で開花する植物である。このため、展示に使用する植物の多くは、低温処理を中心とした開花調節の技術を適用することにより開花させているが、それらのうちいくつかの植物についての低温処理と開花記録はすでに本誌14号に報告した。

本報告は、その後新たに開花調節を試みた植物および、今回初めて目標とした時期に開花した植物に関する報告である。

### 材料および方法

〈供試材料〉 6科7属9種について調査を行った(表)。ヒガンバナ科2種、チューリップ2種については種苗会社より入手した球根を用い、それ以外については当園で養成した球根または株を用いた。

〈低温処理〉 過去の実績や資料を参考にし、5℃、10℃のいずれかの温度で4～9週間行なった。10℃は育苗温室に備えつけの冷蔵庫(一方が透明なガラスのため若干光が差し込む)、5℃は当園の種子貯蔵庫(暗黒)とした。

処理方法は前報と同様に行い、表中の記述も

同様にした。

低温処理終了後、速やかに定植した。

〈定植〉 定植のための用土は、真砂土：バーク堆肥＝1：1の混合土に、くみあいCDU複合化成肥料（N-P-K＝15-15-15）を元肥として2g/lの割合で混ぜた物とした。鉢は、主に黒色ビニールポット（径7.5cm～9cm）を用いたが、一部の植物では5～6号の硬質プラスチック鉢あるいは駄温鉢を用いた。

〈定植後の管理〉 栽培温度は、最低温度を12℃とし、晴天時の日中には温室の窓を開け、温度の上がり過ぎを防いだ。一部の植物については定植後すぐに栽培温度を高くすると花飛びの原因となるため、馴らしとして温度なりゆきの条件下（屋外）で約1週間管理した後、栽培温度を高めた。灌水は適時に行ない、肥料は元肥のほか住友液肥2号（N-P-K＝10-5-8）の300倍液を2～3週間に1度施した。

〈開花の記録〉 1993年度、1994年度ともに、開花率（開花株数/処理株数）および第1花の開花日を記録した。なお、開花しなかった株がいくつか見られたが、不開花の原因が元々花芽を持っていなかったためか花飛びによるものかは明らかにしていない。

一部の種を除き、2月末に調査を打ち切った。

### 結果および考察

〈ヒガンバナ科 スノードロップ、黄房スイセン〉 展示期間に開花した。しかし、スノードロップは、開花日のばらつきが大きく、花茎の伸長が少なかったため、処理の改善が必要である。

〈サトイモ科 ムサシアブミ、ウラシマソウ〉 展示期間に開花した。前報のユキモチソウ同様、一斉には開花しなかったが、1花あたりの開花期間は約2～3週間で、1通りの処理で展示期間中花を見ることができた。なお、本属はそのユニークな花容から、常に展示会における目玉となっている。

〈アヤメ科 メラスフェラ〉 展示期間に開花した。本種の処理は、前報のフリージア、パピアナに準じて行ったが、イキシア、ヘスペラ

ンタ等、類似した生活環をもつアヤメ科植物に今後適用できると期待される。

〈ユリ科 チューリップ2種〉 トルケスタニカは展示期間に開花したが、サキサテリスは大きく遅れた。サキサテリスは、結果的に開花日が植付け日に準じて遅くなっているため、展示期間の1月に開花させるためには植付け日をさらに約3週間早める必要がある。そのためには低温処理の方法の改善や、花芽の分化・発達を早める処理を低温処理に先立って行なう必要がある。

〈サクラソウ科 サクラソウ〉 開花は1月中旬となり、展示会開始にやや遅れた。開花時の草姿は、花茎長が短く観賞価値の低いものであった。低温処理の温度が10℃では高すぎたためと考えられる。自然条件から考えると、5℃以下にする必要があるだろう。

〈キンポウゲ科 ミスミソウ〉 前報において低温処理終了後、定植して約40日で開花することがわかったので、それを参考にして少し早く処理を開始したところ、開花までの日数が51日となったが展示期間に花を見ることができた。

### 〈参考および引用文献〉

- 小西国義・今西英雄・五井正憲 1988. 花卉の開花調節. 養賢堂  
濱谷修一 1993. 広島市植物公園栽培記録 14 : 1-6



春を呼ぶ植物展展示風景（平成7年1月）

表 春に開花する植物の促成栽培

植 物 名	通常の** 開花時期	低温処理 方法	栽培時期 (月)							← 展示期間 →	開花率	平均開花日 (標準偏差)	定植後 到花日数			
			9	10	11	12	1	2	3							
<b>Amaryllidaceae (ヒガンバナ科)</b>																
<i>Galanthus elwesii</i> (スノードロップ)*	3~4月	乾燥		30	23	25								18/19	1・9 (15.2)	79
				4	1	1								20/20	1・7 (18.4)	68
<i>Narcissus × odorus</i> (黄房スイセン)*	4月*	乾燥		25	23			7						20/29	1・18 (10.3)	88
				4	1	1		7						20/31	1・15 (9.4)	76
<b>Araceae (サトイモ科)</b>																
<i>Arisaema ringens</i> (ムサシアブミ)	4~5月	湿バーミ		21	6	16	29							4/4	1・4 (2.4)	60
<i>Arisaema urashima</i> (ウラシマソウ)	4~5月	湿バーミ		▽	6	16	26							2/2	1・12 (—)	68
<b>Iridaceae (アヤメ科)</b>																
<i>Melasmaerula ramosa</i>	4~5月	ポット植*8/31		5	31		24							18/18	1・12 (7.3)	99
<b>Liliaceae (ユリ科)</b>																
<i>Tulipa saxatilis</i> *	4月	乾燥		7	9	19	26							8/16	1・27 (0.7)	80
				18	20	29	28							13/20	2・4 (4.6)	77
				27	29	29	10							10/18	2・12 (2.3)	76
<i>Tulipa turkestanica</i> *	4月	乾燥		7	9	19	29							11/17	12・31 (7.1)	53
				18	20	29								7/16	1・10 (3.2)	52
				27	29	29								8/18	1・17 (2.9)	50
<b>Primulaceae (サクラソウ科)</b>																
<i>Primula sieboldii</i> (サクラソウ)*	4月	湿ミスゴケ		21	16	30	9							14/24	1・22 (9.9)	68
<b>Ranunculaceae (キンポウゲ科)</b>																
<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i> (ミスミソウ)	3~4月	湿ミスゴケ		7	5	6	30	23						6/11	1・1 (8.0)	57

低温処理温度：■ 5℃, …… 10℃. 仮植：▽, 定植：▼. 最低栽培温度：~~~~ ゆりゆき, ——— 12℃. 開花：○

\* 1983年度の記録 (無印は1994年度の記録)

\*\* 当園で露地, 無加温霜除け, または凍結を防ぐ程度の加温下で栽培した場合の開花時期.